══════════════════════════════════

△△△△排水機場

仮復旧マニュアル

══════════════════════════════════

（令和　○年○月作成）

**目次**

【Ⅰ　基本編】

第1章　基本方針 1

(1) 復旧目標 1

(2) 対象設備範囲 1

【Ⅱ　実践編】

第2章　事前の取り組み 2

(1) 日常的な備え 2

(2) 近く大雨が予想される場合の備え 2

(3) マニュアル整備 2

(4) 事前訓練の推奨 2

第3章　被災後の対応 3

(1) 復旧対応のフロー 3

(2) チェックシート1による確認 4

(3) チェックシート2による確認 5

【Ⅲ　資料編】

第4章　個別機場資料 6

（別紙1）施設状況表 6

（別紙2）連絡表 7

（別紙3）チェックシート1 8

（別紙4）チェックシート2（浸水深レベル１） 9

　　　〃　　　　（浸水深レベル２） 13

〃　　　　（浸水深レベル３） 17

・図面 21

**【Ⅰ　基本編】**

**第1章　基本方針**

**(1)　復旧目標**

**《復旧目標》**

**排水機場が浸水被害を受けた後、当面の排水機能を維持出来る状態（仮復旧）に**

**速やかに回復させる。**

　大雨等で排水機場が浸水しある水位まで設備が水に浸かってしまうと、電気系統は絶縁不良となり、補機類および燃料にも水が浸入し、モーターポンプ・エンジンポンプ共に排水機能を失ってしまう。その後適切な点検・整備・部品の交換などを行ない仮復旧する事で、ポンプを再稼働し当面の排水機能を維持する事が可能となる。

本マニュアルは浸水後のさらなる雨に備えて、必要となる排水能力を当面の間確保するために必要となる整備内容等を事前に整理しておき、速やかに仮復旧出来るようにする。

また、仮復旧はあくまでも被災時から当面の運転に備えるものであり、仮復旧の対象としない設備も含め、今後被災前と同じように運用および維持管理を進めるため、機場設備全体の本復旧が改めて必要となる。

**(2)　対象設備範囲**

排水機場を構成する設備のうち、主ポンプ設備、主ポンプ駆動設備、系統機器設備（燃料系統、冷却水系統、始動系統、満水系統、潤滑油系統）、電源設備（自家発電設備、受電気盤等）、除塵設備など、排水機場の排水機能を復旧するのに必要最低限の設備を対象とする。

参考：

「土地改良施設管理基準及び運用・解説-排水機場編-」

（平成20年9月、農林水産省農村振興局整備部水資源課）

「豪雨に対する備えと対応（参考事例集）排水機場編」　　　　　　　　　　　　　　　　　　（農林水産省農村振興局）

**【Ⅱ　実践編】**

**第2章　事前の取り組み**

本マニュアルの本題は浸水後の仮復旧であるが、事前にできる限りの準備をしておく事が重要である。

**(1)　日常的な備え**

□　過去の湛水被害を整理し把握しておく。

□　機場周辺および遊水池にゴミはたまっていないか

□　水中ポンプや清掃道具はどこにどれだけあるか

□　業者との災害協定締結（建設業者、除塵機業者、ポンプ業者）

□　地区内の作付状況を把握しておく。（運転の判断に活用）

□　自治体が作成している地区のハザードマップを確認する。

□　自治体が作成している水防計画または地域防災計画（風水害等災害対策

計画）の確認。

□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ）

**(2)　近く大雨が予想される場合の備え**

□　各種気象情報を活用する。

□　下方の棚および床に置いてある備品等は高い場所に移動する。

□　予備排水を行なうなど、水位管理を徹底する。

□　災害協定締結業者の確認を行なう。(発電機、水中ポンプなど)

□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ）

**(3)　マニュアル整備**

□　連絡表は漏れがないか。

□　チェック表の対象設備は漏れ・間違いがないか。

□　浸水深によって発注が必要となる可能性がある部品は把握しているか。

□　排水機場が浸水した場合のシミュレーションは出来ているか。

□　マニュアルの存在は関係者で共有出来ているか。

□　保管場所は機場が浸水時に閲覧可能な場所であること。

□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ）

**(4)　事前訓練の推奨**

上記チェックシートを利用して、浸水被害後に

迅速に状況把握および復旧対応が出来るかどうか、

事前に関係者でシミュレーションを行う事が望ましい。

**第3章　被災後の対応**

　浸水被害対策として、『復旧対応のフロー』に従って順番に実施する。

**(1) 復旧対応のフロー**

**(2) チェックシート1による確認**

実際に洪水被害が発生した際はチェックシート1を活用する。

①浸水被害があった場合は、排水機場建屋の床仕上げ面より何mの浸水深となったか、記入する。電気、水道、ポンプの稼働状況の有無を記入する。

②仮復旧までに時間を要すると判断される場合は、応急ポンプの手配をする。

③浸水位がどの浸水位範囲に当てはまるか確認し、チェックを入れる。その際の浸水深レベルを確認し、使用する「（別紙4）チェックシート2」を選択する。

**③**

**②**

**③**

**①**

**①**

**①**

**(3)** **チェックシート2による確認**

チェックシート1による確認にて選択したチェックシート2は、ポンプメーカーへ早期にデータ送信し状況報告および相談を行う。

管理者が現場で確認した内容は「状況調査」欄に記入し、「応急復旧可否」「現場対応可否」欄も合わせて、メーカーとのやり取りの中で活用し、迅速な仮復旧対応につなげる。被害があった場合、必要とされる対応のうち現場対応が出来ると判断すれば、メーカーの現地調査の前に管理者で対応する。交換が必要な部品については早期の発注を検討する。

